



地域の産科医療に光再び

4/4 安曇野赤十字病院産婦人科医師着任

安曇野赤十字病院（澤海明人院長）ではこの4月から2人の産婦人科医師を迎え4月4日、その医師らが宮澤市長へあいさつに訪れました。新任の医師は、産婦人科部長の駒井宏さん（写真右から2人目）と菊川忠之さん（写真右から1人目）です。2人の着任により常勤の産科医不在が解消され、平日の外来検診が可能となりました。宮澤市長は「2人の先生を迎えられ地域の産科医療に光が見えました」と歓迎しました。診療についての問い合わせは安曇野赤十字病院 ☎72・3170(代)まで。



ゆとりを持って安全運転

4/6 春の全国交通安全運動街頭啓発

春の全国交通安全運動の出発式が4月6日、豊科南穂高の大型店駐車場で行われ、安曇野交通安全協会やPTA、警察など関係者約100人が参加しました。宮澤市長はあいさつで「安心安全なまちづくりを進めるため、皆さんのご協力をお願いしたい」と激励しました。その後、白バイやパトカーの先導で広報車がパトロールに出発。近くの交差点では通勤時間帯にあわせてのぼり旗で街頭啓発を行い、ドライバーに安全運転を呼び掛けました。

飯沼飛行士の偉業をたたえて

4/7 第13回安曇野紙ヒコーキ競技大会 紙飛行機教室

安曇野紙飛行機競技大会実行委員会（齋藤光永実行委員長）主催の紙飛行機教室が4月7日、豊科南社会体育館で開かれました。

同実行委員会では、1937（昭和12）年に東京-ロンドン間を飛行し、当時の世界記録を作った豊科南穂高出身の飯沼正明飛行士を顕彰するため、旧豊科町時代から毎年、紙飛行機の競技会や初心者向けの教室を開催しています。

この日は、県内外から16人が参加。参加者は、実行委員に教わりながら30分ほどで初心者向けの紙飛行機を作りました。完成後、5回の飛行時間の合計を競う競技会が開かれ、飛行機が10秒近く飛び続けると参加者から歓声の聲が上がっていました。

子どもと参加した鬼頭和巳さん（松本市）は「公園で飛ばしているのを見て以前から興味がありました。子どもと一緒に楽しめ、大人も夢中になれます」と話してくれました。

8日には豊科南部総合公園を会場に全3種目による競技大会が開かれ、35人が参加しました。



全国へ飛ばたく 安曇野の子どもたち

3/23 市内小中学校4校合同市長表敬訪問

安曇野の子どもたちが全国の舞台で大きく飛ばたきました。全国大会出場を控えた中学生10人と、2月に環境大臣賞を受賞した山本悠介くん（穂高西小6年当時）が、3月23日、宮澤市長を表敬訪問しました。

全国大会へはソフトテニスに穂高東中、管楽器個人・重奏コンテストに穂高西中・堀金中の皆さんがそれぞれ出場。子どもたちからは「ほかの選手の分も精いっぱい頑張りたい」、「友達や家族に感謝し、悔いの残らない演奏をしたい」など出場に先立ち、力強い意気込みを話しました。

また、穂高西小6年1組（当時）ではクラスで環境教育プログラム「キッズISO14000（初級編）」に取り組み、全員が国際認定を受けました。その中で、山本くんは節水の仕方など工夫を凝らした実践が特に評価され環境大臣賞を受賞しました。

宮澤市長は「全国で活躍する皆さんは、市民の誇りです。これからも競技や興味のあることを続けてほしい」と期待を寄せました。

暮らす私たちがもっと関心を

3/10 地域ブランド研究会 研究大会2012in安曇野

地域ブランド研究会（事務局・信州大学人文学部）では3月10日、地域づくりや安曇野ブランドと景観を考える集いとして「地域ブランド研究会 研究大会2012in安曇野」を豊科交流学習センター「きぼう」で開催しました。当日の午後は「安曇野ブランドの形成と発展」と題して、安曇野という名称の歴史やイメージについて3つの研究報告が行われました。引き続き行われたパネルディスカッションでは関西学院大学の渡邊勉教授をコーディネーターに4人のパネリストが安曇野の景観やその景観にかかわりが深い水について思いを語り合いました。ディスカッションでは「それぞれの立場から地域の人が景観や水、地域に関心をもち、現状や問題意識を持つことが大切」呼び掛けがありました。



若者同士が交流を深める

3/29 クラムザッハ訪問団が帰郷

姉妹都市のオーストリア、クラムザッハ町を訪れていた市公式訪問団（団長 村上副市長、15人）が3月29日に帰国し、本庁舎前で帰郷報告をしました。今回は、6泊8日の日程で訪問、高校生10人が同町の若者らと交流を深めました。高校生代表の黒岩裕士さん（三郷明盛）は「とても大切な経験となりました。Danke schön（ありがとう）」と感想を述べました。

なお、訪問の様子は広報あづみのに後日掲載します。